

久賀小だより



校訓 なかよく ただしく たくましく

学校教育目標

互いのよさや違いを認め合い、学び合う子供の育成

目指す学校像

- ・子供が主体的に生活する学校
- ・安心・安全な学校
- ・地域に開かれ信頼される学校

目指す児童像

- ・よく考え表現する子
- ・思いやりのある子
- ・心身ともにじょうぶな子

「久賀っ子あいうえお」

- あ あいさつ
- い いっしょうけんめい
- う うんどう
- え えがお
- お おもいやり

卒業おめでとう 令和7年度 卒業証書授与式

3月17日（火）、うららかな春の日差しが降り注ぐ中、「第53回卒業証書授与式」が挙行されました。多くのご来賓と保護者の皆様、そして4・5年生、教職員が見守る中、6年生の子供たちは真新しい中学校の制服に身を包み、堂々と久賀小学校を巣立っていきました。

6年生は、全校児童のリーダーとしてあらゆる場面で下級生を牽引しました。笑顔を絶やさず、感謝の言葉を大切に作る姿は、学校全体を温かい空気で包みました。久賀小で育んだ「久賀っ子あいうえお」は社会へ出て変わらず大切な宝物となります。その心を忘れず、新しい世界でも自分らしく輝いてほしいです。あらためてご卒業おめでとうございます。



修了おめでとう 共に育む「主体性」の芽

3月24日（火）、今年度最後の授業日を迎えました。修了式では、5年代表児童が「自分で考え、自分から行動する力」がついた、と自らの成長を力強く振り返りました。本校が目指す「子供が主体的に生活する学校」の姿が子供たちの中に根付いていることを大変うれしく、頼もしく感じました。

さて、4月から子供たちは一つ上の学年へと進級します。子供たちの「主体性」を育てるために、私たち大人はどう寄り添うべきでしょう。「手出しせず、なるべく本人に任せる」ことは大切ですが、それは単に突き放すことではありません。大切なのは、放っておくことではなく、豊かな「対話」を通じて心を通わせることだと考えています。「どう感じた?」「次はどうしたい?」といった問いかけ（対話）を重ねることで子供は安心して自ら「気づき」、納得して「行動」できるようになります。学校と家庭が手を取り合い、温かな「対話」を通して、子供たちの自立の芽を共に育てていければ幸いです。

地域の皆様とともに歩んだ一年に感謝

「地域と共にある学校へ」－皆様に支えられた一年に感謝を込めて－

久賀小がコミュニティ・スクールとして歩み始め、早いもので3年目が終わろうとしています。本校では、地域住民の皆様からなる「学校運営協議会」の委員の方々と共に、学校のビジョンを共有し、子供たちのために何ができるかを「熟議・協働」してまいりました。学校・家庭・地域が手を取り合い、同じ目標に向かって活動できたことは、本校にとって何よりの財産です。

今年度の具体的な活動については、本校ホームページ上の「コミスク通信 29号」「久賀小コミュニティ・スクール通信No.11」にて詳しくご紹介しております（他にもバックナンバーあり）。ぜひ、子供たちの生き生きとした姿を振り返っていただければ幸いです。

日頃より温かくご理解、ご協力をいただきました保護者の皆様、そして地域の皆様、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

新年度も変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。